

令和4年度第2回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和5年2月18日(土)10:00～11:30
- 開催場所 栗東市立図書館 小会議室
- 出席者 國松完二、吉川なおみ、角井浩美、井上和子、園田純子、宗本和子、大屋邦代、辻村章子
- 事務局 教育部長、図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 2人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章唱和

会長挨拶

2、協議事項

- ① 令和4年度事業報告について
- ② 令和5年度図書館運営方針及び事業計画(案)について
- ③ その他

3、閉会

1、開会

(会長挨拶)

ようやくコロナの影響も下火になってきました。ちょうど今年度から第2次の図書館運営方針がスタートしていますし、市長も変わられたところですが、図書館も、積極的に対応していただけたらと思います。

このメンバーでの協議会は残り半年となりますが、できるだけ図書館のサービスや運営を応援していければと思います。本日は、図書館について、幅広くご議論いただければと思います。

2、協議事項

- ① 令和4年度事業報告について

(事務局)「栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する各年度の目標値(案)」及び「令和4年度事業報告」について説明

(委員)郷土資料の説明で「紙版が作られず、ネットでのみ公開する行政資料が多くなってきた」という話がありましたが、デジタル資料としての収集はしていないのでしょうか。

(事務局)現時点では、デジタルの形で保存・収集することは難しい状況です。ただ、栗東関連の資料で、必ず確保しておきたい統計書などについては、図書館用に紙版を一部いただけるように担当課に働きかけ、資料として確保していくように取り組んでおります。

(委員)いずれは、どうしても紙版が確保できない資料も出てくるかと思えます。設備も必要で、大変なことだとは思いますが、将来的には、どこかでやらなければならないことだと思えました。

(事務局)確かに、長い目で見たら必要になってくることだと思えます。他市の取組みの情報収集もしながら、状況を見据えていきたいと思えます。

(委員)移動図書館の試行開始について、もう少し状況を教えていただきたいと思えます。

(事務局)移動図書館については、子どもの来館が減っていることから、開始いたしました。現在は葉山幼稚園にお伺いしており、本をコンテナに入れて運び、部屋では表紙が見えるように置くことで子どもが本を選びやすいようにしています。当初は4歳児、5歳児が月ごとに交互にご利用いただいておりますが、現在は4、5歳児とも毎月ご利用いただいて、概ね一回あたり100冊程度の貸出があります。

(委員)葉山幼稚園に勤めております。移動図書館では、子どもたち一人一人が図書カードを作る、それだけでも子どもはとても喜んでおります。園の本もだんだん傷んでいっておりますが、新しい本を次々と購入できない状況があります。人数が多い園ですので、来ていただくことで、すごく助かっている部分があります。それから、カードを作ったことで、家から図書館に行くお子さんもあります。ご家庭も一緒になって動きかけになる、その意味でも良い事業だと感じているところです。子どもも、好きな本を選んで、絵本バッグに入れて嬉しそうに持ち帰っていますので、来年度からも引き続きお願いしたいと思っております。

(会長)来年度は、行く先を増やす予定はありますか。

(事務局)最終的な目標としては、就学までに全ての子どもが1度は本を借りるようにしたいと考えています。全ての5歳児が、図書館のカードを持って、一冊でも本を借りる。一冊でも、家族の方と一緒に本を見ていただくということを目指しております。

ただ、専用の車があるわけではないので、運行の都度、本の積み下ろしなどの業務が発生しており、業務量的には厳しいところがあります。来年度、もう1園程度は増やしたいと思っておりますが、全体としては、徐々に広げていく形で進めていきたいと考えております。

(委員)例えばその移動図書館の積み込み作業をボランティアに頼むというようなことはあり

ますか。

(事務局)現在の運用のまま取組みを全市に広げていくためには、検討していく必要があると思います。ただ、以前のように書架がついた専用車でしたら、もう少し業務量が少なく済みますので、そのあたりも併せて検討していきたいと思っています。

(委員)私は本を借りるにあたって、インターネットから予約しているのですが、予約というのは、とても前向きな気持ちで、この本を読みたいと思ってのものだと思います。説明にあった数値には表れていないのですが、予約はどれくらいあるのでしょうか。

(事務局)予約件数、特にインターネットからの予約は年々増えています。今年度12月までの貸出冊数が38万冊ですが、同時期の予約件数は4万3千件となっています。より広く使っていただけるよう、折を見て広報などを行っていききたいと思っておりますし、以前に協議会からご意見をいただきましたQRコードの活用も、現在検討しているところです。

(委員)最初は手書きで予約していましたが、スマホから予約できると知って、チャレンジしてみたらずっと便利でした。本の紹介を見た時にすぐその場で予約できるし、連絡もメールでもらえる。若い方などは特にスマホの扱いに慣れているので、こうするとすごくいいですよということを教えてあげたいなと思いました。

(委員)図書館のページに接続するQRコードを、「ご予約はこちらからできます」と印刷物や館内掲示で広報したら、スマホの扱いに慣れている人はブックマークして利用してくれるかもしれませんし、家からでも予約ができるんだとわかるかと思います。

(委員)貸出カードにQRコードをつけてくたら、手軽に使えます。

(事務局)以前にご意見をいただいて、メールアドレスの登録を促進するチラシにQRコードを付けてみました。そのコードを使って登録された方がどれだけいるかというのは把握できませんけれども、チラシ自体は非常によくお持ち帰りいただけました。QRコードの使用は、予約にも広げていきたいと思っており、次は図書館だよりの新着案内のページにと考えています。

(委員)市や県の案内でも、みんなQRコードが付くようになっています。スマホを持っている人には便利かと思います。

(会長)QRコードは簡単に作れますし、1センチ四方くらいの大きさがあれば、十分スマホで読み取りができるので、いろいろ考えてもらえたらと思います。

(委員)一利用者として図書館を使っています。今後どんどん子どもが少なくなってくる中で利用者を増やしていくことについて、今まで図書館をあまり利用されていないのがどういう方で、これからの取組みとしてどういう方をターゲットに考えていらっしゃるのかをお聞かせください。

(事務局)利用が少ないのは高校生から二十代です。館内では、利用の少ない中高生向け

のコーナーを作ったり、利用の多い高齢者向けのコーナーを充実させたり、様々な年代に向けて取り組んでおりますが、利用者の増加という意味で特に力を入れるターゲットとしては、就学前の子どもを考えています。そこでまず、読書の習慣、図書館に来る、生活に図書館があるという状態を目指す。そのために、本館からは移動図書館、西館では児童館とタイアップした広報を開始しました。先方の担当者によくコミュニケーションをとりながら、丁寧に進めていきたいと考えています。

(委員)忙しい世代というのはなかなか図書館に足を運ばれないので、そこはとても気になっている部分です。仕事をされている方は、読みたい本もネットで買うことが多いですし、職場で図書館を勧めても、時間がないと言われることが多いです。電車の中で本を読んでおられる方を見かけたりすると、図書館に行きたいけれど行けない世代もあるのかなと思います。ただ、子どもがまず本を好きになるようにという取組みはいいなと思います。

(委員) 児童館にPRボックスを設置して、その後、児童館から人は来られますか。

(事務局)児童館からグループで来られる姿をお見かけしています。また、西館では、現在は木曜日だけですが会議室を子ども用に開放して、親子連れが来館しやすいようにしています。

(委員)会議室の開放はいいなと思います。開放で、会議室に本を置くようになって、部屋を温かく感じるようになりました。

(委員)守山は、乗り合いタクシーがあつて、その乗り合いタクシーで図書館まで行けるようです。栗東は、本館が行きにくい立地なので、乗り物難民には、何かあるといいのかなと思いました。

(委員)特に土日はくりちゃんバスもありません。

(事務局)交通機関のことは、図書館だけではなく、市内全体で課題になっているかと思います。既存のバス路線も本数が減って、だんだん図書館に来にくくなっています。図書館で何とかするのは難しいことではありますが、いろいろな機会に声をあげていく必要があると思っています。

(委員)何年か前に大きな寄付があつて、そこから毎年 100 万円ずつ本を買っていくという話があつたと思うのですが、今はどうなっていますか。

(事務局)現在も小林児童文庫基金として運用しています。

(委員)就学前の子たちに力を入れていくということは、その年代向けの絵本を多く購入することかと思うので、その寄付がまだ残っていたらいいなと思いながら聞きました。ただ、その基金が終わった時、次にどうするかを考える必要があると思います。成人向けの本の予算を削ってそちらに回すのか、予算全体の増額を目指すのか。

(事務局)小林児童文庫基金は、令和 8 年度が最終年度になります。これとは別に、今年度

と来年度は、西館のロングセラー絵本の買替を予算化していただいております。今年度買替えた本は非常によく借りられています。本を丁寧に買って行くことを、計画的に行うことが必要になってきたと思っています。

(委員)子どもが絵本に触れるのは本当に大事なことだと思っています。コミセンの図書室で、小さなお子さんを連れのお母さんが本を借りてくださっていて、最近、貸出が増えていきます。ちょっと図書館までは来られないという方たちが借りてくださっています。大変でしょうが、移動図書館を増やしていただけるとありがたいと思います。

いつも人に図書館を勧めてはいるのですが、やはりここまで来る手段がない。来てみればいいところなのはわかるのですが、初めの一歩がなかなか踏み出せない人もいます。その初めの一歩をどうしたらいいのかなと思います。

② 令和5年度図書館運営方針及び事業計画(案)について

(事務局)「令和5年度図書館運営方針及び事業計画(案)」について説明

(委員)図書館は恒常的に予算不足に見えますが、全国の図書館を見た時に、クラウドファンディングなどを取り組んでいる事例はないのでしょうか。

(事務局)現在、栗東でも、移動図書館車の配備にクラウドファンディングという話が出てはいますが、具体化はしていない状況です。今年度のトイレの改修はコロナの交付金、以前の空調設備の改修はトレセンからのご寄付というように、いろいろなご縁で助けをいただきながら進めてまいりましたし、これからも、情報にアンテナを立てながら取り組んでいく必要があると考えています。

(委員)若いお母さんなどに図書館に対して思うことを訊くと、ゆっくり本を読みたいと思っても、机が高齢男性で埋まっており座りにくいなどを聞きます。

また、子どもを連れの方は、もう少しプラスアルファがあると、図書館に行こうと思えるのではないかと思います。例えば、博物館との間のスペースにすべり台など子どもが遊べるものがあると、図書館に行って帰りにそこで遊ぼうか、となると思うので、ぜひ考えていただけたらと思います。

(会長)クラウドファンディングを、新しく何かを作るタイミングなどで実施している図書館はあります。それから、ふるさと納税の使用目的で、子どもの本の充実を選べる自治体もあります。ただ、ユネスコ公共図書館宣言にもあるように、近代の図書館は寄付でなく税金で運営するという原則があります。クラウドファンディングなどは、部分的には可能ですが、恒常的な予算不足を解消するのは難しいと思います。

(事務局)企業版ふるさと納税の対象として、手を挙げたことはあるのですが、採択されませ

んでした。以前は図書館にはあまり情報が来なかったのですが、現在は担当課から声をかけていただけるようになっていきますし、可能な部分については、手を挙げていきたいと思っています。

(会長) コロナの影響が落ち着いてきており、来年度は、いろいろな自治体でかなり積極的な予算編成をされているようなことも耳にします。栗東の場合は、いろいろあって、以前から文化芸術関係の予算が抑えられてきているので、そろそろ配分していただいてもと思うのですが、そのあたりはどうでしょうか。

(事務局) 来年度予算については、だいぶ固まってきています。教育予算につきましては、若干の増で、国体がありますので、それに対する措置分などがございます。また、先ほどから話題に出ているクラウドファンディングでは、体育館の改造や学校の遊具の修繕などで実績がありますし、ふるさと納税も、図書館や読書に特化してはおりませんが、子どもたちのためにというメニューがございます。市長もいろいろなことを積極的にやっていきたいという見解を持っておられますので、皆さんのアイデアをいただきながら、図書館の取組みも進めていきたいと思っています。

(事務局) コロナが落ち着いてきて、西館会議室の親子連れへの開放など、コロナ禍の間はできなかったことを始めております。遊具も、大型のものはありませんが、会議室の開放の時に、布絵本やおもちゃ、ぬいぐるみを一緒に置くなど、利用しやすいように工夫しています。それを本館にも広げるなど、予算がそれほど必要ないところでも精一杯努力していきたいと思っていますので、ご意見をいただけたらと思います。

(委員) コロナの影響が下火になって、ということだと、椅子を戻して欲しいです。

(事務局) 一時期に比べると、だいぶ戻していますが、元々椅子同士を密着させて置いていたところが、まだ戻しきれていない状態です。やはり、来館した時に少し休憩したいということはあると思いますので、しっかり考えていきたいと思っています。

ただ、椅子自体も、開館から 36 年が経過し、だいぶ傷んできています。機械の不具合の改修が続いていますが、こういった部分についても丁寧に計画していきたいと考えています。

(会長) 他市の図書館でも、そろそろ椅子を戻し始めるのでしょうか。

(事務局) 学校への通達で、人同士の距離は取るようにとされているので、距離的な部分をどう考えるか、来館される皆さんが、心情的なところでどう思われているのかが難しいと思っています。日本図書館協会からの指針なども確認しながら進めたいと思っています。

(委員) ヤングアダルト図書のことをお聞きしたいのですが、本館は、以前は玄関に入ってまっすぐ行ったら見える位置にコーナーがありましたが、今は横の方に移動しています。西館も、一番奥まったところであって、ヤングアダルトが日陰の身になっているような

印象がするのですが、利用率はどうなっていますか。

(事務局)本館の場所ですが、元の場所だと置く本の量が限られるため、本の量を増やす、そのスペースを確保するために移動しました。配置については、中高生があまり職員目の届くところには居たがらないということもあり、他館の状況を見ても、少し奥寄りに配置する館が多いです。利用については、良く利用されております。

(委員)コーナーの存在を知っていれば、そこに行けるのですが、そこに行き着くためのとっかかりとして、何か目立たせることはできないかなと思います。

(事務局)今のところ、とっかかりとしては、夏休みで中高生の利用が比較的多い時期、正面に設置する中高生向けの展示に、コーナーの案内を掲示しています。他にも何かしたいと思っておりますが、今は具体的には固まっていない状況です。

(事務局)西館では、近々、ヤングアダルトコーナーの広さを倍にする予定です。その際、配置について改めて職員で話し、その年代の子がいる職員の意見も聞きながら、やはり思春期は人目の多い場所には居たくない、友達と気兼ねなく過ごしたいという面が強いかなということで、今のままの配置といたしました。中高生に、ここが私たちの場所と思ってもらえるよう育てていきたいと思っています。

(委員)西館はよく行くので、コーナーが育っていくのがわかって、嬉しく思っていました。これからも育てていってほしいです。

(事務局)コーナーには丁寧に手を入れていきたいと思えます。中高生向けに実施してきたくりちゃんブック大賞も、一旦、見直しをする予定ですので、コーナーを含めて活性化できる方法を考えていきたいと思えます。

「令和5年度図書館運営方針及び事業計画(案)」を承認

(会長)それでは、来年の一年間、この方針と事業計画に沿って、よろしく願いいたします。

③ その他

(事務局)「レファレンス記録」について説明

(会長)この記録はどこかで見られますか。

(事務局)公開は今のところ、しておりません。

(事務局)年々いろいろなことが簡単に調べられるようになり、レファレンスの内容も変化しています。簡単に調べられるようになったことへの問合せは減る一方、地元についての質問が増えている印象です。

(会長)県立図書館がレファレンスの記録を集めていると思いますが、そこには出ていますか。

(事務局)現在は出せていません。共有するようになっています。

3、閉会

(部長挨拶)

本日は、たくさんの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

これまで3年間、コロナ禍の中でも、図書館にはたくさんの方がお見えでございました。その中で、今日の話題には出てきませんでしたけども、開館日などの課題もごございます。利用しやすい図書館にしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

次回

令和5年7月29日(土曜日)午前10時から 本館小会議室